

2025 年度 核融合科学研究所 第 14 回 ITER 国際スクール参加支援
実施報告書

IIS2025 参加支援			
参加者	所属機関： [REDACTED]	職名・学年： M2	氏名： 山下愛未
参加者連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]	
派遣期間	2025 年 6 月 30 日 ～ 2025 年 7 月 4 日 (5 日間)		
得られた成果等 (行数は適宜増やしてください)	<p>1. 本スクールでの印象に残った講義やイベント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ITER 見学と現地での講義 <p>実際に ITER 施設を見学する中で、その規模の大きさ、進捗を目の当たりにすることができ、非常に感銘を受けた。同時に、現地で働く方の講義を聞いて、新技術以外の組み立てや細かい部分での課題についても知見を深めることができた。</p> <p>2. 本スクールに参加して新たに得られた知見や技能等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラズマ解析の課題 ・ 解析コードの利用と課題 <p>3. 他国の参加者との交流状況について</p> <p>講義内外での交流を通して、他国の多くの参加者と研究や専門分野に関して知見を深めることができた。多くの参加者は現在プラズマを主分野に据えていたが、過去の専攻・研究分野においては幅広い分野から集まっており、ITER という技術の幅広さ、奥深さを強く実感した。</p> <p>4. 自分自身の今後の研究・職務等への効果について</p> <p>自身の研究である「炭素複合材料の宇宙機利用」の宇宙環境の模擬にシミュレーションをしようとしており、複合的な環境要因や材料内部への影響を考慮する手法に関して非常に勉強になった。また自身は解析において初心者であるため、条件設定における課題感や手法についてかなり深くまで知ることができたと考えている。</p> <p>5. その他、特筆すべき事項、重要な課題、スクールの感想、事業への要望等</p> <p>本スクール参加にあたり、御支援・ご指導をくださった NIFS をはじめとする多くの方々に感謝申し上げます。体調不良により予定していたポスターの発表は叶いませんでしたが、その時間外でも多くの参加者の方とプラズマをはじめとする核融合炉技術、また自身の研究にも関心を持っていただき非常に有意義な一週間を過ごすことができました。このような機会をいただけたこと大変感謝するとともに、今後の研究活動においてこのご縁、得られた知見を存分に発揮してまいります。</p>		
備考			